

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



交流授業

Cheonan Ssangyong Middle School



第1回交流授業

Where is our city,
Fukuyama?



Name of our School



I want to go to Korea



What is My favorite anime
① ONE PIECE (원피스)
② ZOSHINOKO (주리의 아이)
③ My hero academia (내 영웅 아카데미)

各校の紹介クイズ（動画・スライド）

ブレイクアウトルームでの会話
（自己紹介＆クイズ）

①学校・地域紹介（全体）

Cheonan Ssangyong Middle School の担当教員、東中学校代表生徒がCanva（写真・動画）やGoogle スライドで自分たちの学校を紹介した。

自分たちの学校や地域についての紹介クイズを行った。

チョンアンサンヨン中

- ・学校名、場所など
- ・チョンアン市について
- ・有名な食べ物

東中（生徒作成）

- ・学校名、場所、生徒人数など
- ・福山市について
- ・東中学生の好きな韓国料理ランキング

②自己紹介（グループ）

ブレイクアウトルームで東中学校の生徒がGoogle スライドを使って自己紹介やクイズを行った。

《接続方法：Zoom》

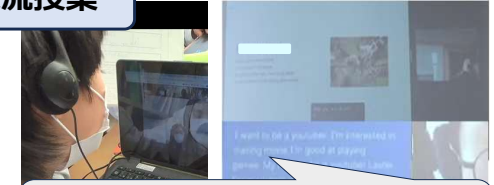
福山市立東中学校



第2回交流授業



日常会話の交流、スライドでの自己紹介



Cheonan Ssangyong Middle Schoolの中学生の自己紹介とミッション遂行！

①韓国生徒による自己紹介（全体）

Cheonan Ssangyong Middle Schoolの生徒がPadletで自己紹介（将来の夢）を行った。東中学校の生徒からの質問にCheonan Ssangyong Middle Schoolの生徒が答えた。韓国語、日本語による日常会話の交流（※挨拶等の簡単な表現）を行った。

②自己紹介（グループ）

ブレイクアウトルームでCheonan Ssangyong Middle Schoolの生徒が自己紹介を行い、その内容について両校の生徒がやり取りを行った。東中学校の生徒が自分が決めたミッションに挑戦した。

- ミッション例
- ・相手の名前を覚える
 - ・自分の名前を覚えてもらう
 - ・相手の好きなアニメや有名人を聞き出す

《接続方法：Zoom》

大切にしたこと

- ・ゴールイメージを生徒と共有し、生徒自身がミッションを考え、目標達成に向けて自主的に活動が行えるようにした。
- ・ブレイクアウトルームを使って、個々の生徒ができるだけ多くの時間、英語でやり取りできるようにした。
- ・できなかったことをできるようにするためには、どうすればいいのかを考えさせ、実行させた。
- ・実際の交流活動を成功させるために、帯活動等において、4月から様々なトピック、場面設定で自分の意見が簡単な英語で話せるようにした。
- ・困難なことがあってもあきらめずに、自分たちで工夫しながら活動を続けることができるように日頃から支援した。

交流を終えて

生徒の声

- ・外国の友達ができて嬉しかった。自分の言いたいことや相手の言いたいことを伝え合えて楽しかった。
- ・韓国の生徒がせっかく話してくれたのに、分からない単語があって理解できなかったのが悔しかった。英語をもっと勉強したいと思った。
- ・学校で習ったことが役に立った。
- ・いい経験になった。卒業まで韓国との交流を続けたい！

先生の声

- ・多くの生徒にとって、とても有意義な取組になった。生徒たちは、初めは思うようにいかず、戸惑うことが多かったが、試行錯誤しながらも、伝えたいことが自分の言葉で伝わった時の生徒の喜びと笑顔は忘れられない。外国の中学生とつながる嬉しさ、楽しさや、普段の授業で学習したことが実際に役立ったと実感してくれたと思う。
- ・これからの交流を有意義なものにするためにも、生徒にどのようなことができるようになってほしいかなど、具体的なゴールイメージをきちんともって授業づくりを行い、生徒が楽しく学習していけるよう支援していきたいと思う。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Cheonnam Middle School



交流授業

第1回交流授業



相手校との初めての
自己紹介



文化についての
クイズ問題に挑戦

①生徒代表の挨拶（全体）

本校第2学年生徒代表による挨拶で授業を始めた。まず相手に感謝の気持ちを伝え、本日の授業で交流する内容等について説明した。

②自己紹介（グループ）

グループごとに一台の端末の周りに集まり、事前に作成したネームカードを見せながら自己紹介をした。自分の話したことが伝わったり、相手に自分の名前を呼んでもらったりするたびに喜ぶ姿が見られた。

③文化紹介クイズ（グループ）

互いの国や地域の文化を紹介するクイズを実施した。事前に伝えたい情報をまとめたスライド資料を画面共有しながら提示した。互いの国について知らなかったことを知れて喜んでいた。また、「相手も●●のことを知っていた！」という驚きの声もあった。

④Q&Aタイム（グループ）

残りの時間を使って、関心のある事柄について話したり質問したりする等、相手と自由に会話を楽しんだ。

《接続方法：Zoom》

大切にしたこと

- ・会話を円滑に進めるため、“Could you say that again?”等の定型表現を事前の常学習で練習し、交流授業で活用できるようにした。
- ・韓国の中学生と既習の英語を使って交流できることを今年度の授業の目標の1つとして生徒と共有し意識させた。その目標達成に向けて言語活動を充実させた。
- ・相手校とのメールのやり取りで、授業イメージや準備の進捗状況を共有し、両校共に、授業のねらいを達成できるよう、準備や当日の運営を行った。
- ・当日のICTトラブルを軽減するため、海外校との事前の接続テストや生徒へのICT機器操作に関する指導を徹底した。また、Zoomによる授業の運営については教育委員会のICT支援員の支援の下、安心して実施することができた。

呉市立両城中学校



第2回交流授業



1回目の交流で学んだことを
生かして会話が盛り上がる！



相手校が韓国の名所
を紹介している様子

①生徒代表の挨拶（全体）

相手校の生徒による挨拶、学校紹介で始めた。Cheonnam Middle Schoolの特色についての紹介を聞いた。

②自己紹介（グループ）

生徒の発話時間を確保するために、各グループの人数を前回の半分に減らし、グループ数を増やした。前回交流したグループとは違うグループに分かれ、自己紹介をした。

③両校によるおすすめ場所紹介（グループ）

先生間の事前連携で、相手校の生徒が日本のおすすめスポットについて興味があるということが分かったため、呉や広島の魅力ある場所を紹介した。スライド資料に示す英文を最小限にし、自分の言葉で表現した。途中、うまく伝わらない場面もあったが、生徒はジェスチャーを用いたり、既習の語彙や表現を駆使したりすることで、何とか相手に伝えようとしていた。また、相手校の生徒からは、韓国の名所について教えてもらった。

④Q&Aタイム（グループ）

互いに紹介した内容や関心のある事柄について話したり質問したりする等、相手と自由に会話を楽しんだ。話の途中で終了時間を迎えたグループもあり、「もっと話したかった。」という声も多く聞かれた。

《接続方法：Zoom》

交流を終えて

生徒の声

- ・クイズの答えが分からなかった時に、相手校の生徒がジェスチャーで教えてくれたのが嬉しかった。コミュニケーションが取れた。
- ・相手に質問したことで、会話が広がった。
- ・（第2回交流授業について）前より会話が続いたこと、外国の人と考えを共有できたこと、楽しく話すことができたことが嬉しかった。相づちや発音を完璧にしたい。

先生の声

- ・簡単な語句や表現を用いてコミュニケーションを図る中で、会話が盛り上がり、生徒に自分の英語力に自信をもたせることができた。多くの生徒に、自分の気持ちや考えを伝えることができた達成感を味わわせることができた。
- ・海外の同年代の生徒とコミュニケーションを図ることを通して、本当に聞きたいこと、本当に話したいことを伝え合えたことで、生徒の英語学習に対する意欲が更に高まった。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Gwangpung Middle School



交流授業

第1回交流授業



4会場に分かれ電子黒板を使って交流



交流時間は
1グループ20分

< 4会場で実施（4会場×6回で、4学級を24グループに分けて交流）>

①全体会なし

生徒同士の交流時間を十分確保するため、全体会は行わなかった。

②自己紹介

1台の電子黒板の周りに集まり、グループ毎に交流した。

班長が班の人数と名前を紹介した後、一人一人が自己紹介をした。

自分の名前や好きなもの（アニメやスポーツ、K-popグループ等）等をタブレットで提示しながら自己紹介を行った。

⇒相手がよく反応してくれたため、生徒が楽しみながら交流を行うことができた。



③学校紹介or地域紹介

グループ毎に学校紹介又は地域紹介を作成した。グループの全員が話せるよう、グループ内で協力して英文やスライドを作成・準備した。紹介の中に「3択クイズ」や「T or F クイズ」を取り入れ、一方通行の発表にならないよう工夫した。

⇒多くの班で時間が足りず、次回への持ち越しとなった。

※今回の交流を通して、相手の興味・関心のあることについて知ることができた。

※発表よりもやり取りの方が交流が楽しいことが分かった。

⇒2回目の交流に向けた改善点とした。

《接続方法：Zoom》

大切にしたこと

①クロスカリキュラムで学習内容と時間を有効活用！

④交流人数の違いは工夫次第で解決可能！

⑦相手の興味のない話題はすぐ変更！

⑨交流時のデジタル機器等の環境大事！

②相手校とのメールのやり取りはシンプルに！

⑤交流時間をしっかり取る！

⑧教員はタイムマネジメントと機器の不具合への対応のみに徹する！

⑩本事業の目的を授業の中で伝え続ける！

③できるだけ相手校に合わせる！（交流日時、時間割、接続方法等）

⑥交流内容は作り込みすぎない！

交流を終えて

生徒の声

- ・廿日市についてのクイズをすると楽しんでくれて、クイズを作ってよかったと思った。
- ・英語で話すことの楽しさを知れた。もっと外国人と話してみたいと思った。
- ・母語が違って、同じ言語を学んでいれば何とかなることが分かったし、楽しかった。
- ・いざ話そうとすると人見知りが出てしまって、話すことが難しかった。何でもやってみればよかった。
- ・この経験を生かして次は留学などを通して、もっと身近に異文化を感じたいと思った。

廿日市市立大野東中学校



第2回交流授業

発表3割、やり取り7割
Free Conversationが楽しい！



交流時、生徒は自分達だけで交流

< 4会場で実施（4会場×6回で、4学級を24グループに分けて交流）>

①全体会なし

1回目同様、生徒同士の交流時間を十分確保するため、全体会は行わなかった。

②自己紹介

Do you remember me? 等、一人一人が再度自己紹介をしたが、

2回目の交流のため、スムーズに行うことができた。

③学校紹介or地域紹介（5分以内）

前回時間が足りず、持ち越しとなった学校紹介又は地域紹介を行った。

発表
3割

④Free Conversation

1回目の反省を生かし、Free Conversationの時間を多く取った。

相手の反応・様子を見ながら、生徒は話題を選択した。

生徒だけで交流し、教員はタイムマネジメントと機器の不具合への対応のみに徹した。

やり取り
7割

《接続方法：Zoom》

先生の声

- ・英語を使って、教室内で外国の同世代の人と第3学年の生徒全員が交流機会をもてたことは、大変有意義であった。
- ・多くの生徒が本事業の目的を理解し、英語を用いて仲間と協力し合いながら楽しんで交流していた。英語学習の意義を体感し、その後の学習意欲につなげることができた。
- ・本事業を通して、生徒の意欲面（本事業「英語の授業についてのアンケート」）、学力面（英検IBA・広島県中学校英語「話すこと」に関する調査）の両方で成果が見られた。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Songnam Middle School



交流授業

第1回交流授業



韓国の学校について聞いている様子



好きなものについて紹介している様子

①挨拶（全体）

両校の英語担当教員と生徒が挨拶を行い、担当教員が交流授業の流れを確認した。

②学校紹介（全体）

両校の英語担当教員が、学校の様子、学校行事等について、パワーポイント資料を提示しながら紹介を行った。

③自己紹介（グループ）

両校の生徒を5グループに分け（1グループ：Songnam Middle School 4名、本郷中学校 5～6名）、グループMeetで各自の名前と好きなものについて簡単な自己紹介を行った。生徒は自分の名前を書いたカードと好きなもののイラストや写真、実物を用意し、画面に映しながら紹介した。

④Q&A（グループ）

自己紹介後は、互いが話した内容についてコメントを伝え合ったり、質問したりしながら交流した。

⑤振り返り（全体）

両校の英語担当教員が振り返りを行った。

《接続方法：Google Meet》

大切にしたこと

- ・生徒同士が英語でコミュニケーションを図る時間を最大限に確保することを大切に。そのため、小グループで交流を行うことで生徒一人一人の発言機会が多くなるようにした。
- ・生徒がやり取りする際、音声だけではなく、提示資料があった方が互いに理解しやすいと考え、2回目の交流授業ではスライドの共有を行った。

生徒の声

- ・外国の人と英語で会話することが新鮮だった。
- ・色々な表現を身に付けて、質問を準備して、もっと会話ができるようにしたい。
- ・実際に英語を使って会話することは難しかったけれど、表情を見たりできたので楽しかった。
- ・スライドで紹介したことなどで話題が広がり、話が弾んでとても楽しかった。
- ・言語が違っても、英語で自分が言いたいことが伝わった時は、とても楽しかった。

交流を終えて

三原市立本郷中学校



第2回交流授業



前回話したメンバーと再会した時の様子



韓国の生徒のプレゼンテーションを聞いている様子

①挨拶（全体）

両校の英語担当教員と生徒が挨拶を行い、担当教員が互いの学校の近況を伝え合った。

②自分の国・興味のあること紹介（グループ）

自分の国のこと（文化、場所、食べ物、アニメ等）について、または、韓国のこと（文化、K-pop、ドラマ等）について互いに紹介した。その際、事前に作成したスライドを画面共有した。

※事前の担当教員間の連携で、互いに発表内容を理解しやすくするため、スライドを作成することを確認した。スライドには、写真、イラストに加え、文章も載せた。

③Q&A（グループ）

一人の発表が終わるたびに感想を伝え合ったり、質問をしたりしながら交流した。

④振り返り（全体）

両校の英語担当教員が活動を振り返り、フィードバックを行った。

《接続方法：Google Meet》

先生の声

- ・「もっと話したい。」「次は〇〇したい。」と前向きに取り組み、交流を楽しむ姿が見られ、本事業に参加して本当によかったと思う。
- ・英語で話すという経験をしたこと、またその経験から「通じる」という自信を得た生徒が多かった。
- ・英語を使う必要性があったことで、準備にも一生懸命取り組む姿が見られた。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Hwaseong Middle School



交流授業

第1回交流授業



学校紹介クイズの様子



自己紹介の様子

①挨拶、授業の流れの確認（全体）

相手校の教員が挨拶を行い、授業の流れを確認した。

②学校・地域紹介（全体）

両校の生徒がパワーポイント資料を提示しながら、自分たちの学校や地域について紹介した。高野中学校の生徒は、1つのトピックにクイズを1問入れて発表した。相手校の生徒が手を挙げる等して、クイズに参加してくれた時には、言葉が通じていると実感し、盛り上がった。

- ◆高野中学校…地域の有名なもの、時程、科目、規則、部活動、行事
- ◆Hwaseong Middle School…地域の有名なもの、時程、韓国語等

③自己紹介（グループ）

両校の生徒が、4つのグループに分かれてブレイクアウトルームに入り、自分の名前、ニックネーム、好きなもの等について交流した。言葉で伝えるだけでは難しいと思い、紙に大きく名前の呼び方を書いたり、好きなものの写真を貼ったりして伝えた。“Once more.”などの英語が自然と出ており、何とか相手の話を理解しようとしていた。

④振り返り（全体）

両校の生徒の代表が授業の感想を述べ、本校の教員がまとめをして終えた。

《接続方法：Zoom》

大切にしたこと

- ・生徒一人一人が話す機会をもてるように、小グループでの交流を実施した。
- ・相手校の生徒とできるだけ双方向のやり取りができるように、紹介の時もクイズを入れたり、失敗を恐れずコミュニケーションを図ったりすることを大切にした。
- ・声が聞こえなかったり、反応がなかったりした時に相手に伝えられるように、そのための英語表現を事前に学習し、当日もホワイトボードに示しておくようにした。
- ・会話が途中で止まって困ることがないように、どんな話ができるかを考えさせ、話題をたくさん準備するようにした。

生徒の声

- ・自分の名前を呼んでもらうことができ、よい思い出になった。
- ・相づちを打ったり反応したりすることで話がとても弾んだ。
- ・クイズの時、相手に伝わって嬉しかった。
- ・韓国のことが分かったり、クイズに参加できたりしてとても楽しかった。
- ・色々な日本の文化が韓国にも入っていると知ることができた。
- ・今までにない体験だったので、一生忘れられない体験になった。

庄原市立高野中学校



第2回交流授業



クイズに参加している様子



自己紹介の様子

①挨拶、授業の流れの確認（全体）

本校の教員が挨拶を行い、授業の流れを確認した。

②クイズで文化紹介（全体）

両校の生徒がパワーポイント資料を提示しながら、自分たちの国の文化についてクイズを取り入れながら紹介した。互いに参加型のクイズを行うことで、正解した時などには盛り上がった。

- ◆高野中学校…食べ物、アニメ、ゲーム、自然、日本語等
- ◆Hwaseong Middle School …食べ物、歴史、文化、スポーツ、韓国語

③自己紹介（グループ）

両校の生徒が、前回と異なる4つのグループに分かれてブレイクアウトルームに入り、自分の名前、ニックネーム、好きなものなどについて交流した。前回作成した自分の名前や好きなものの写真を貼った紙を活用し、会話を行った。相手校の生徒が日本のことをよく知っていることに気付いたり、名前を呼んでももらえたりして、生徒は嬉しがっていた。

④振り返り（全体）

両校の生徒の代表が授業の感想を述べ、相手校の教員がまとめをして終えた。

《接続方法：Zoom》

交流を終えて

先生の声

- ・発表よりもクイズの方が盛り上がり、つながりを感じて楽しく交流できた。
- ・自分のことを知ってもらおうと一生懸命英語で伝える姿や、相手のことを知ろうと何度も英語で聞いている姿が見られたことにより、教員が教えてきたことを生徒が生かしていると実感するとともに、コミュニケーションを図る必然性をもたせることは大事だと感じた。
- ・グループでの会話の際には、事前に話題をたくさん考えたり、声が聞こえない等のトラブルに対応できる英語表現等を確認したりしておくことで、自分たちで色々な話のできていたので準備は大切だと思った。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Phuketwittayalai School



福山市立鷹取中学校



交流授業

学 年：第1・2学年

単元名：自分のことや身近なことについて伝え合おう。

ねらい：自分の考えを伝えたり、相手の言ったことに反応したりするなど、即興的に英語を用いてコミュニケーションを図ることができる。

自己紹介、即興的なやり取り



3ヒントクイズ



活動内容：

①自己紹介（グループ）

全体会を行わず、ブレイクアウトルームで6つのグループに分かれ、それぞれのグループで互いに簡単な自己紹介を行った。

②即興的なやり取り（グループ）

What food do you like?やWhat are your hobbies?など、授業で何度も触れてきた英語を使いながら、相手の好きなことや趣味について質問した。タイの生徒も積極的に色々な質問を行った。また、日本の食べ物やアニメなどについても関心が高く、共通の話題があると盛り上がった。

自分の聞きたい内容だけを一方的に質問するのではなく、話の流れに合わせて、追加質問をするなどの工夫が見られた。

③3ヒントクイズ（グループ）

タイの生徒が知りたがっていることなどについて、クイズを出した。タイの生徒は本校の生徒の質問内容を粘り強く聞いて答えを推測し、正解した時には、互いに盛り上がった。

3ヒントクイズでは、相手意識をもって、どのような順番でヒントを出すか工夫するといった姿も見られた。

«接続方法：ZOOM»

大切にしたこと

- ・生徒同士でコミュニケーションが図れるよう、グループで交流する時間をできるだけ多く確保した。
- ・相手の顔を見ながらコミュニケーションができるように、タブレットやチャットの使用を制限し、メモも必要最低限の内容を書くだけにとどめさせた。
- ・自分たちが伝えたいことを表現したり、聞きたいことを質問したりできるように、教科書でインプットしたことをアウトプットするためのSmall Talkを繰り返し行った。

交流を終えて

生徒の声

- ・自分の英語が伝わって嬉しかった。また、伝えることで自信になった。
- ・タイの生徒は日本のことをよく知っていてビックリした。自分たちもタイのことについてもっと知りたいと思った。
- ・タイの生徒の英語力がすごいと思った。
- ・海外の生徒と交流するのはよい経験になり、色々な話ができて楽しかった。

先生の声

- ・海外校と交流する機会があまりないので、とてもよい機会になった。
- ・最初は、コミュニケーションを取れるか不安だったが、生徒たちの楽しそうな姿を見ることができ、とても有意義な時間となった。
- ・生徒の交流する姿を見て、今後更にどのような力を身に付けていく必要があるかを確認することができたので、授業改善に活かしたい。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Donggang Middle School



呉市立和庄中学校



交流授業

学 年：第1学年

単元名：Unit 6 A Speech about My Brother

(NEW HORIZON English Course 1)

ねらい：互いに紹介した人やものについて、関連した質問をしたり、質問に答えたりするなどして会話を継続・発展させることができる。

日本の食べ物の紹介



Free Conversationの様子



活動内容：

①挨拶（全体）

両校の教員が簡単に挨拶と当日の流れの確認を行った。

②プレゼンテーションタイム（グループ）

両校の生徒がグループに分かれ、事前に把握した互いの興味のある内容に関するプレゼンテーションを短時間で行った。即興性を意識して、会話をさせることをねらったため、実物や写真、タブレット端末などを補助的に用いてプレゼンテーションを行わせた。

③Free Conversation（グループ）

②で行ったプレゼンテーションの内容や、これまでの交流から「もっと知りたい」、「話したい」と感じたことについてやり取りした。

※②及び③は、関心のある事柄について、相手からの質問に対し、即興で応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動となるようにした。

④フィードバック（全体）

本校教員と相手校の教員から意欲面についてフィードバックを行った。

«接続方法：zoom»

大切にしたこと

- ・生徒に事業の趣旨等を繰り返し伝え、間違いを恐れず、楽しみながら主体的に即興で話す活動として、交流を見守る姿勢を大切にすることを意識した。
- ・授業の常活動では、Small Talkを活用して、日韓両国の文化や食べ物などについて、何度も繰り返しやり取りさせ、当日の交流に自信をもって臨めるようにした。
- ・会話を継続したり、広げたり、深めたりするために、聞き返したり、確かめたりすることや、相づち、つなぎ言葉、内容に関連する質問をするなどの方策について指導した。
- ・当日は、教員が挨拶を短時間で行った後、すぐに生徒がブレイクアウトルームに移動し、プレゼンテーションやFree Conversation等、交流できる時間を十分に確保した。

交流を終えて

生徒の声

- ・第1回交流と比べ、会話が続き、楽しむことができた。
- ・アニメの話など互いの文化について、これまで習った英語を生かして話すことができた。仲良くなれて、また話したいと思った。韓国へ行ってみたいと感じた。
- ・相手が話す時、うなずいたり拍手したりするなどジェスチャーを意識した。また、自分のことを伝えた時、相手がよいリアクションをしてくれてとても嬉しかった。

先生の声

- ・生徒が嬉々として会話する様子が印象的だった。実際に外国の生徒とのコミュニケーションを通して、自分が伝えたい内容や気持ちを伝えたり、相手が言っている内容を理解したりすることでコミュニケーションを図る自信や学習意欲の向上につながることができた。
- ・少人数のグループ編成をすることで積極的に発言することができ、英語の発話量が増えた。
- ・交流授業後、日々の授業で発言に対してリアクションをしたり、自発的に質問したりする生徒が増加した。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Samsenwittayalai School



竹原市立忠海学園

交流授業

学 年：第8学年
単元名：Unit 4 Homestay in the United States
(NEW HORIZON English Course 2)
ねらい：互いの国の文化や習慣について、尋ねたり伝えたりすることができる。

Self introduction



Quiz about my school



活動内容：

①始めの挨拶（全体）

本校の教員から全員に向けて挨拶を行い、今回の交流のテーマを共有した。

②自己紹介（個人）

両校の生徒が1対1のペアとなり、簡単な自己紹介をした。その後、互いの趣味や好きなゲーム等について即興的なやり取りを行った。共感できる点がいくつかあり、交流が深まった。

③互いの文化や習慣についての紹介（個人）

②と同様に、相手校の生徒と1対1のペアとなり、互いの文化や習慣、流行っているものについて、クイズ形式で伝え合い、交流を図った。日本文化に関するクイズを出題した際のやり取りから、自分と相手校の生徒の日本文化に対する認識の相違に驚き、交流が深まった。

④振り返り（全体）

両校の教員が活動を振り返り、その場でフィードバックを行った。

《接続方法：ZOOM》

大切にしたこと

- ・伝えたい内容に関連した資料（写真等）を作成させ、必要に応じて資料を提示しながら、既習事項を駆使し、会話を継続・発展させるよう、日々の授業で言語活動に取り組ませた。
- ・事前に様々なトピックを用意し、相手の興味・関心に応じて、生徒が自ら話題を変える等して、会話が継続できるようにした。
- ・1対1での形態で交流を実施し、十分な交流時間を確保することで、生徒一人一人が即興で伝え合うことができるようにした。
- ・会話を広げたり継続させたりするために、質問に対して事実や自分の意見等を述べたり、関連した質問を返したり、相づちを打ったりするなどの指導をした。

交流を終えて

生徒の声

- ・外国に友達ができて嬉しかった。
- ・タイのシンボルがゾウだと知って驚いた。いつかタイに行き、実際に会って話してみたいと思った。
- ・伝えたいことをスムーズに伝えることができてなくて悔しかった。
- ・2回目の交流授業では、自分の名前を憶えていてくれて嬉しかった。

先生の声

- ・相手校と1対1という形態でやり取りすることで、緊張感があったと思うが、リアリティに溢れたコミュニケーションの場を経験できる有意義な時間になった。
- ・英語学習のゴールイメージを生徒と共有することができた。
- ・想像以上に生徒の対応力が高いことに気付くことができた。
- ・本事業の生徒の姿をゴールイメージとして逆向きで授業づくりを行い、マネージメントしていきたい。



Roi-ET Wittayalai School



東広島市立河内中学校

交流授業

学 年：第1学年

単元名：河内中学校の学校生活や行事を紹介しよう

(Lesson 5 School Life in the U.S.A NEW CROWN English Series 1)

ねらい：学校生活や行事について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を伝えることができる。

身振りを加えながらコミュニケーションを図っている様子



写真を見せながら行事の紹介をしている様子



活動内容：

①自己紹介（グループ）

両校の生徒が9つのブレイクアウトルームに分かれ、ビンゴゲームを取り入れた自己紹介を行った。相手校は一人に1台の端末を使用、本校はそれぞれのグループで1台の端末を共有し、交流をした。相手を変えながら3回の自己紹介を行ったため、回数を重ねるごとに、自信をもって生徒が英語を話す姿が見られるようになった。

②学校生活・行事紹介（グループ）

両校の生徒が7つのブレイクアウトルームに分かれ、「①自己紹介」と同様の形態で交流を行った。学校生活についての紹介では、両校とも写真を提示しながら説明を行った。両校が交流日までにクラウド上にアップロードした写真を共有したことで、生徒はある程度内容をイメージしながら説明を聞くことができた。学校生活及び行事紹介が終わった後の質疑応答では、初めはうまく質問ができなかったが、徐々に簡単な語句や文を用いて質問したり、相手からの質問内容を理解しようと何度も聞き返したりする場面が見られた。会話を継続させようとする生徒の前向きな姿勢が印象的であった。

《接続方法：Zoom》

大切にしたこと

- ・既習の簡単な語句を駆使しながら、対話をするよう指導し、生徒が自信をもって英語を話せるようにした。そのことにより、相手に伝わったときの達成感が得られるようにした。
- ・小グループ編成にすることで、どの生徒も英語で話す機会を多くもてるようにした。
- ・言語活動を繰り返し行い、伝えたい内容について、事実や自分の考えなどを簡単な語句や文を用いて話せるよう指導した。また、相手とのやり取りの際に使える、困ったときの「お助け表現集」をALTが用意し、授業で活用する中で、会話を継続できるようにした。

交流を終えて

生徒の声

- ・相手国の生徒と比べると、英語を話す力がまだまだ不足していると感じた。相手の話を聞いて、その場に応じたリアクションや会話ができるようになりたい。
- ・相手からの質問に答えたら、“Me, too.”と言って相づちを打ってくれた。また、体全体を使い、聞いている反応をしてくれたため、話しやすくて楽しかった。
- ・1回目の交流授業では相手に伝わりづらくて何度もやり直したけれど、2回目の交流授業では伝わっていると感じた。自分の発音がよかったからだと思うと嬉しかった。

先生の声

- ・生徒は当初、英語でのコミュニケーションに苦手意識があったが、他国の同年代の生徒との2回の交流を通して、よい刺激を受けるとともにやり取りの楽しさを感じ、コミュニケーションを図ることや英語学習の意欲向上につながった。
- ・2回目の交流の際、生徒一人一人が、自分の力でコミュニケーションを成立させようと意欲的に話したり、聞いたりする姿が印象的だった。今後も交流を継続し、学年段階に応じたテーマや交流形態を工夫することで、1対1でのコミュニケーションを図る力の育成を目指したい。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Kuai Ji Junior High School



府中町立府中中学校

交流授業

第1回交流授業



台湾の生徒の自己紹介



府中中学校の生徒の自己紹介
+ 日本紹介

第2回交流授業



台湾についてのプレゼンテーション
+ 日本についての質問



お互いが聞きたいことを
英語でやり取り

学 年：第3学年

単 元 名：Be a Bridge between Japan and Taiwan

ね ら い：自分のこと、日本のおすすめのものや人について、紹介したり、思いや理由などを伝え合ったりすることができる。

活動内容：

①台湾の生徒による自己紹介（グループ）

海外校の生徒が自分自身について紹介（年齢・兄弟姉妹の人数・好きなもの等）した。iPadを使い、写真等を提示する生徒もいた。

②府中中学校の生徒による自己紹介・日本の紹介（グループ）

本校の生徒が自己紹介を行った。次に、単元を通して作成した「紹介レポート」を応用し、「日本の誇れるもの」を紹介した。

《接続方法：Google Meet》

大切にしたこと

- ・お互いの文化を尊重できるように、国と国がかかわることの大切さを事前に指導した。
- ・日本に興味を持ってもらえるように、相手意識をもってプレゼンテーションをするよう指導した。
- ・トラブルを軽減するために、情報担当者と綿密に打ち合わせを行ったことで、緊急時の対応を確認でき、実際の場面でも対応することができた。

生徒の声

- ・話すときに相手の目を見ることができた。実際に目の前にはいなかったけれど、原稿ばかり見るのではなく、顔を上げて話すことを意識した。
- ・海外との交流は表現できないくらい、計り知れないくらい素晴らしいものだと思う。
- ・国境を越えた国の人と自分のことについて伝え合えたことで、日本のおすすめについて、英語を使って語れる力が付いた。
- ・外国の人に対して日本で有名なものを説明することができるようになった。

交流を終えて

先生の声

- ・生徒にとってとてもよい経験になった。リモートのため音声や時差等調整が難しいこともあったが、生徒は楽しみながら英語を使って活動することができた。
- ・プレゼンテーションといった一方通行のアウトプットよりも、Q and A方式の方が生徒の話す力、聞く力、即興力が身に付くことが分かった。相互のインタラクションにより、生徒の達成感、充実感もあるように見えた。
- ・2回の交流授業を行う中で感じたことは、ゴールイメージの共有の難しさである。教員間のゴールイメージが異なっていると、取組の質に差異が生じてしまうと感じた。

《接続方法：Google Meet》

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Seoil Middle School



坂町立坂中学校



交流授業

学 年：第2学年

単元名：日本のおすすめの屋台料理と観光地を紹介しよう！

(Program 3, Our Project 4 Sunshine English Course 2)

ねらい：韓国の生徒に、日本のおすすめの屋台料理と観光地を伝え、交流することができる。

おすすめの屋台料理を
聞く生徒たち



おすすめの観光地を
説明する生徒たち



大切にしたこと

- ・韓国の生徒とオンラインで楽しく交流ができるように、「大きな声で、ゆっくり、はっきり、相手の反応を見て、自分も反応をする。ジェスチャーを使う。」ことを指導した。
- ・第1回交流授業の反省を生かし、韓国の生徒の発表に対して質問できるよう、事前学習の中で、A L Tの発表を聞いて質問を考えたり、ペアで会話練習を行ったりした。
- ・第1回交流授業以降、帯学習で「繰り返しRepeat 反応Reaction コメントComment 質問Question」を意識して、ペアで会話練習を行った。
- ・交流授業を行う場所を6つの教室に分けて、音がハウリングを起こさないようにした。

生徒の声

- ・第1回の交流より、使える単語や質問できる回数が増えて良かった。うなずいたり、手を振ったりすることが前よりもできるようになったので良かった。もう少し1つの話題に対して長く話せるようになれたらいいなと思った。
- ・第1回の交流の時よりも、相手が何を言っているのかが分かった。相手が話している時に、相づちをすることができた。
- ・日頃からA L Tの先生と話すことが大切なんだなと思った。本当に楽しかった。
- ・もう一度、交流をやってみたい。

交流を終えて

先生の声

- ・交流授業後のアンケートでは、98%の生徒が、交流を楽しんだと回答していた。長年英語教員をしてきて、こんなにたくさんの生徒の笑顔を見ることができたのは初めてだった。「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたいです。」と肯定的に答えた生徒は、事後アンケートでは22.6%増えた。生徒の感想には、「会話ができるように頑張りたい。」「思ったことを英語で話せるように頑張る。」など、意欲的な意見がたくさんあった。2回の交流授業において、相手の発表を聞いて質問をするということが課題だった。今後も質問する力を身に付けさせたい。

単元の流れ：

- ①オンラインで自己紹介をする。 **課**
パワーポイントで自己紹介のためのプレゼンテーション資料を作成し、オンラインでA L Tに自己紹介をした。自己紹介後にA L Tからの質問に答えた。
 - ②A L Tによる発表を聞く。 **主**
A L Tからアメリカの屋台料理について聞き、自分たちのプレゼンテーションの参考にした。
 - ③おすすめの屋台料理を紹介する。 **課**
グループごとにおすすめの屋台料理を紹介するプレゼンテーション資料を作成し、オンラインでA L Tに伝えた。その後、発表内容に関するA L Tからの質問に答えた。他のグループの発表を見て、よい点、改善点、感想等を共有した。
 - ④A L Tによる発表を聞いて、質問を考える。 **主**
A L Tからアメリカのおすすめの屋台料理や観光地についての発表を聞き、質問考えた。
 - ⑤第1回交流授業（6グループ 約20分） **課**
 - ⑥帯学習で会話練習をする。
毎時間ペアで会話練習をした。
(R R C Q) Reaction Repeat Comment Question
 - ⑦スピーキングテストの実施 **課**
 - ⑧資料を作成し、A L Tに発表する。 **課**
グループごとにおすすめの観光地を紹介する資料を作成し、英文を考えた。A L Tに英語表現について質問したり、発表を行ってアドバイスをもらったりした。
 - ⑨第2回交流授業（5グループ 約20分） **課**
- 課**「課題発見」に関する学習 **主**「主体的な学び」に関する学習

活動内容：

第1回交流授業

①自己紹介（グループ）

両校の生徒が簡単な自己紹介を行った。

②おすすめの屋台料理の紹介（グループ）

互いにおすすめの屋台料理について紹介したり、質問したりした。

③フリートーク（グループ）

興味のある話題について、互いにやり取りを行った。

第2回交流授業

①おすすめの観光地の紹介（グループ）

両校の生徒が互いにおすすめの観光地について紹介したり、質問したりした。

②フリートーク（グループ）

興味のある話題について、質問したり答えたりしながら互いにやり取りを行った。



《接続方法：Zoom》

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Hwaseong Middle School



安芸高田市立美土里中学校



交流授業

学 年：第1～3学年
単元名：第1学年 Unit 4 Friends in New Zealand
第2学年 Unit 6 Research Your Topic
第3学年 Stage Activity 2 Discover Japan
(NEW HORIZON English Course 1・2・3)
ねらい：外国人等と英語を使って主体的にコミュニケーションを図ることができる。

ブレイクアウトルームでの会話
(自己紹介)



会話が弾むと笑顔も増えてきました。

大切にしたこと

- ・全校生徒が交流できるように各学年1回ずつ交流を実施した。
- ・生徒一人一人が話す機会を増やせるように、小グループでの交流を取り入れた。
- ・言葉だけで伝わらない場合や聞き取れない場合を想定して、コミュニケーションがうまく取れるようにするためにどうしたらよいか考えさせ、スライドやメモを準備した。
- ・常活動等において、様々なトピックや場面で自分の意見が簡単な英語で言えるように活動を仕組んだ。

交流を終えて

生徒の声

- ・言いたいことが伝わった時、とても嬉しかった。
- ・自分の好きなアニメを知っていたり、ゲームの話で盛り上がったりして楽しかった。
- ・最初は緊張したけど、話していくうちにとても楽しくなった。またやりたい！
- ・今まで習ったことを使って英語でたくさんの会話をするのが楽しかった。
- ・英語で他の国の人も交流してみたいと思った。
- ・習った英語で文を作れば、意外と会話ができるということを知った。

先生の声

- ・英語が苦手な生徒も一生懸命自分のことを伝えようとしている姿が見られてとても嬉しかった。相手が言っていることが聞き取れないときも“One more time, please.”等言いながら会話を続けていた。英語で話すことに対する生徒の意欲が高めることができたと感じた。
- ・最初の交流授業前に事前接続テストとして相手校と短時間つないだ。その時はうまく話せず沈黙があったが、本番に向けて生徒自身が質問を考えたり英語表現を練習したりして主体的に学ぶ姿が見られた。目的が明確であることにより、生徒が粘り強く課題に取り組むことができたと感じた。

«接続方法：Zoom»

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Plookpanya School



三原市立宮浦中学校

交流授業

学 年：第3学年

単元名：Stage Activity 2 Discover Japan
(NEW HORIZON English Course 3)

ねらい：日本文化や自分の好きなものについて、詳しい情報を加えながら紹介することができる。

互いの国の文化クイズを出し合う様子



互いに好きなものを紹介し合う様子



活動内容：

①日本文化・タイ文化紹介（グループ）

両校の生徒が自国の文化についてのクイズをGoogleスライドで作成し、出題し合った。選択肢での回答とし、クイズの内容に関するやり取りを重視した活動を行った。

②好きなもの紹介（グループ）

自分の好きなものを1つ選び、Googleスライドでプレゼンテーション資料を作成して紹介した。日本の生徒が先に紹介し、その後、タイの生徒が紹介した。

③質疑応答（グループ）

①②の活動が終わり、時間があつたグループは互いに質問をし合った。教員は、事前に質問リストを作成しておき、生徒が質問をする際にヒントを得られるよう支援した。

≪接続方法：Google Meet≫

大切にしたこと

- ・高い英語力がなくても、誤りのない完璧な文章ではなくても、相手に伝えようとする気持ちがあれば相手に伝わると生徒を励まし、あきらめずに、失敗を恐れずコミュニケーションを図るよう声掛けをした。
- ・異なる文化をもつ相手との交流で、相手を尊重することの大切さを伝えながら、楽しく学びのある交流するためのルールやマナーを意識させた。
- ・他国の生徒と交流する上で、「相手は日本について、どんなことが知りたいかな」「どんなことを伝えたら面白いと感じてくれるかな」と問い、相手意識をもつことについて指導した。

交流を終えて

生徒の声

- ・タイの生徒と交流をして前は十分にやり取りができなかったけれど、今回はタイの料理を教えてもらったり、「おはよう」など少しでも日本語を話してくれて驚いた。
- ・タイの生徒が自分の名前を何度も覚えようとしてくれたので嬉しかった。
- ・国や文化が違っても英語が話せることでコミュニケーションが取れることの喜びを知った。アドリブで質問したり、答えたりするのは難しいと思った。
- ・文法に誤りがあっても、単語を正しく使えば通じることもあるということが分かった。

先生の声

- ・実際に英語を使って、ALT以外の相手に話すことで、英語を学ぶことの必要性を学び、英語学習のモチベーションを上げることができた。
- ・グループで試行錯誤しながらクイズを作成したり、よりよいプレゼンテーションができるように互いの発表を見合ったりしながら、協働的に学びに取り組む姿勢が見られた。
- ・相手校とのグループ編成についての確認ができておらず、活動が十分に行えなかったグループがあつたため、事前の詳細な連携が必要である。
- ・生徒は話される英語のスピード感についていけず、会話がうまく続かない実態があつた。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Yupparaj Wittayalai School



世羅町立世羅中学校

交流授業

学 年：第3学年
単元名：地域や学校について紹介をしよう
ねらい：異なる文化をもつ相手と、身近なことについて、簡単な表現でやり取りをすることができる。

生徒が説明用に作った動画



ブレイクアウトルームでの会話



活動内容：

①自己紹介（グループ）

相手校の生徒1名と本校の生徒2名程度でグループに分かれ、そのグループの中で互いに自己紹介をし合った。

②地域紹介（グループ）

自己紹介に続き、グループで地域紹介を行い、地域の特色が分かるように説明した。日本全体のイメージと本校の所在する地域とでは、たくさんの違いがあることを意識して説明する内容を工夫した。また、説明の際は、事前に準備をした画像やスライド等を使って、画面共有をしながら、英語で紹介した。

③学校・学校や行事の紹介・やり取り（グループ）

本校特有の学校行事について説明した。その際、なるべく画面共有をして、言語で伝わりにくいところは、視覚的に分かるように工夫した。また、互いの説明について、質問をしたり、感想を伝えたりする等、その場でやり取りをした。

«接続方法：Zoom»

大切にしたこと

- ・自己紹介や学校紹介等、伝えたい内容が決まっていることは、事前に準備をする時間をもって生徒に英文や画像、動画等を作らせた。
- ・互いの国の違いや共通していることを知るために、事前に相違点や共通点に関する質問を生徒とともに考えておいた。
- ・その場でのやり取りでは、意思疎通ができたこと自体を評価した。

交流を終えて

生徒の声

- ・共通して好きなK-Popの話や日本のアニメの話に話題が移り、自分が伝えたいことが伝わって嬉しかった。
- ・タイの料理のガパオライスを総合的な学習の時間につくって、写真を見せたら、タイのものと一緒に言われてうれしかった。
- ・接続がうまくいかなかったり、相手の声が聞こえにくい時は難しかった。
- ・自分が想像していたようにうまくコミュニケーションを図ることができなかったが、楽しかった。

先生の声

- ・コミュニケーション活動に最初は不安を感じていたが、このような経験をすることで生徒に自信が付き、一定の成果はあったと感じている。
- ・教室の生徒の配置については、丁寧にシミュレーションを重ねて、事前接続の時に試してみることが必要だと感じた。
- ・生徒をグループに分ける際には、グループ編成やブレイクアウトルームの作り方等も併せて相手校と事前に検討・確認することが大切だと思った。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Hansan Middle School



三次市立川地中学校

交流授業

学 年：第1学年

単元名：Unit 4 Our New Friends

(Here We Go! ENGLISH COURSE 1)

ねらい：韓国の生徒と英語を使って互いの文化について伝え合うことができる。



フリートーク中の生徒の様子

iPadを使ってプレゼンテーションをしている様子

活動内容：

①日本の紹介（グループ）

事前に相手校から日本のことについて何が知りたいかを聞き、そのテーマに沿ってプレゼンテーション資料を作成し、グループに分かれて発表を行った。生徒は、不安を感じながらも、伝わるように精一杯工夫して伝えようとしていた。

○準備時間：3時間 ○グループ数：4つ

○交流内容：広島のある有名な食べ物、日本で有名な音楽、ペット、年中行事

②学校生活やきまりの紹介（グループ）

学校での過ごし方をプレゼンテーション資料で発表した。発表後はフリートークの時間を設け、互いの学校のことや文化について理解を深めた。生徒は、韓国語を教えてもらったり好きな歌手について尋ねたりと会話を楽しんでいた。

○準備時間：3時間 ○グループ数：3つ

○交流内容：学期数、学習する教科、1日の流れ、給食の様子、登下校の様子
テスト（試験）等

全体を通して、「話したい」、「知りたい」という気持ちをもって取り組むことができた。また、完璧な英語でなくても会話ができる、自分の気持ちが伝わる嬉しさや楽しさを感じることができている様子だった。交流授業後は「次こそはもっと話せるようになりたい!」と意欲をもって授業に臨む姿が見られた。

《接続方法：ZOOM》

大切にしたこと

- ・相手を知らうとすることが大事だと生徒に伝えること：「韓国の生徒がどんな生活をしているのか」、「学校にはどのようなルールがあるのか」等、相手のことを知りたいという気持ちを高め、「聞きたいことは英語で聞くしかない!」と英語を学習する必然性を持たせた。
- ・とにかくリアクションをすること：オンラインでのやり取りだからこそ、英語を使うことが苦手な生徒にも、言葉以外にもコミュニケーションの手段はあると伝え、互いにリアクションをすることを大切に。聞こえなかったら聞き直さなければならぬため、「しっかり聞かず!」という姿勢を引き出すことができた。
- ・自分の力でコミュニケーションを図ること：困ったときに使える表現を載せたシートを持たせ、自分の力でやり取りを続けることを促した。

交流を終えて

生徒の声

- ・最初は緊張したけれど、韓国の生徒と好きな歌手などの話をして盛り上がれたのでよかった。次はもっといろんなことを聞けるように練習したい。
- ・韓国語を教えてもらったり、日本語を教えたりした。でも英語で聞けないと分からないので、これからの英語の授業を頑張らないといけないと思った。
- ・全然話せなかったのが、次はもっと話せるようになって交流を楽しみたい。
- ・韓国へ行って、実際に会って話してみたいと思った。とても楽しかった。来年も同じ生徒たちと交流したい。

先生の声

- ・生徒に「自分が伝えたいことを伝えられた」、「コミュニケーションが楽しい」という気持ちを持たせることができ、話す自信につながれたことは、とてもよかった。教員にとっても、よい経験となった。
- ・生徒アンケートの「外国の人とコミュニケーションを取りたいか」という設問で、交流授業前は全員が否定的回答だったのに対し、交流授業後には全員が肯定的な回答になった。英語を使ったコミュニケーションを図ることを通して、本当に聞きたいこと、話したいことを伝え合えたことで、生徒の英語学習やコミュニケーションに対する意欲が更に高まった。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Palbong Middle School



庄原市立庄原中学校



交流授業

学 年：第2学年

単元名：「夢の旅行」を企画しよう

(Our Project 4 NEW HORIZON English Course 2)

ねらい：韓国の中学生に日本に興味をもってもらい、いつか日本に行ってみたいと思ってもらえる旅行プランを紹介することができる。

自己紹介の様子



日本の観光地紹介の様子



活動内容：

①学校紹介（全体）

両校の教員が自校について簡単な紹介を行った。

②自己紹介（グループ）

8つのブレイクアウトルームに分かれ、自己紹介（名前、ニックネーム、好きなもの、部活動など）を行った。

③日本の観光地紹介（グループ）

日本の中学生が、スライドを見せながら、日本の観光地を紹介した。その際、韓国の中学生とやり取りをしながら、相手の好みなどを聞き出し、それを踏まえておすすめの観光地を紹介するようにした。

④韓国の観光地紹介（グループ）

③と同様に、韓国の中学生が、イラストを見せながら、韓国の観光地を紹介した。

⑤フリートーク（グループ）

好きなものや日常生活など、様々なことについて自由に会話をした。特にアニメやゲームの話題は盛り上がった。また、互いの言語を教え合う場面もあった。

≪接続方法：Zoom≫

大切にしたこと

- ・ブレイクアウトルームに分かれ、生徒一人一人が英語でやり取りする時間をできるだけ多く確保した。また、交流中は、教員が支援しすぎないよう留意し、生徒が自分たちの力でコミュニケーションを図ることができるようにした。
- ・ネームカードやイラスト、スライドなどの資料を準備したり、交流当日はできるだけシンプルな英語を使うよう指導したりするなど、互いが理解しやすくなる工夫をした。
- ・「自分が伝えたい」という一方的な思いだけで伝えるのではなく、韓国の中学生が楽しめそうな場所を考えたり、日本にもっと興味をもってもらうためには、どのような内容をどのように伝えればよいかなど、「相手意識」や「目的意識」をもってコミュニケーションを行うようにした。
- ・事前に準備した内容を発表するだけでなく、既習事項を使って相手とやり取りをし、相手の好みなどに応じて観光地を紹介するようにした。

交流を終えて

生徒の声

- ・普段、韓国の人と話すことがないので、貴重な機会で楽しかった。交流当日は、韓国の中学生と「今、話すことができていいな。」と実感が湧いて嬉しかった。
- ・韓国の生徒と笑顔で話すことができたので良かった。自分と好きなことが一緒だったので、話が盛り上がり楽しかった。
- ・「もっとやってみたい！」と思った。韓国以外の他の国の人とも交流をやってみたいし、英語で世界の人とつながりたいと思った。

先生の声

- ・生徒たちは、韓国の中学生がリアクションをしながら、興味をもって話を聞いてくれていた姿を見て、「伝わった！」という達成感や英語でつながることの楽しさを実感していた。生徒の英語学習に対する意欲も高まり、大変有意義な経験となった。
- ・生徒たちが全員、笑顔で生き生きとやり取りをしている姿を見ることができ、本事業に参加してよかったと思った。